

「出題の意図」

選抜区分	2023年度 (選抜区分：学校推薦型選抜) 外国語学部 国際関係学科 (科目名：小論文)
出題の意図 (評価のポイント)	<p>1. 出題の背景・求める能力</p> <p>【出題の背景】 学校推薦型選抜の小論文は、資料 1 として伊藤昌亮『炎上社会を考える 自粛警察からキャンセルカルチャーまで』(中公新書ラクレ、2022年)を、資料 2 として Dino Sossi, “Can we cancel ‘cancel culture?’,” (The Conversation, July 21, 2021)を、それぞれ抜粋・変更して出題を行った。いずれの文献も、最近のいくつかの出来事を通じて(肯定的な意味でも否定的な意味でも)耳にすることが多くなった「キャンセルカルチャー」に関する議論を整理し、それが持つ問題点にも言及しており、分断が進むとされる世界の今後を考えるうえで示唆的な内容となっている。</p> <p>【求める能力】 問 1 は、資料 1 の最後にある記述の意味するところを書かせるもので、文章全体を読み取れているかどうかを確認している。単なる要約問題ではなく、筆者の展開する論理を正しく追う必要があるため、受験生の論理的な思考力と読解力を見ている。また、字数の関係で表現に一定の工夫を凝らす必要があることから、受験生の判断力と文章表現力を試すものでもある。</p> <p>問 2 は、資料 2 の内容を簡潔にまとめたうえで、筆者の示す具体例に言及しながら、自分自身の見解を述べさせる問題である。ここでは第一に、英文を正しく読めるかどうかを問うている。第二に、2つの資料で示唆される寛容のあり方、自由と正義とが対立する局面への対応という困難な問題について、英文で示された具体例に即して受験生自身がどう考えるかを、正しい日本語で論理的に述べさせようと考えた。思考力・読解力に加えて、論理的な文章表現力を試す問いである。</p> <p>2. 解説(解法)</p> <p>問 1 では、筆者が導き出したキャンセルカルチャーの合理性・一貫性を、論旨に従って説明しなければならない。合理的でも一貫的でもないように見えるものがなぜ肯定的に評価できるのかを、正しく記述することが求められる。キャンセルカルチャーは不当な人権侵害を糾弾するものであるが、ともすれば寛容性を欠くことがある。特に過去の行為をやり玉に挙げることと、社会の寛容を保つことの間にある矛盾を、筆者がどのよう</p>

に論じているのかを読み解き、社会の変化・価値観の変化に言及しながら解答すればよい。受験生の解答を見る限り、読解に関してはおおむね問題なかったが、文章表現についてはある程度の差が見られた。

問 2 は、英文資料で整理されている議論をまとめ、そこで扱われた事例に即して自身の見解を述べるものである。キャンセルカルチャーは差別的な態度の抑止に効果があるものの、言論の自由に制約を課すことになるため、評価が難しい場合がある。筆者は、ネット上での議論になることから個々のケースによる調整が困難なこと、相互に敬意を持った対話がしづらい環境が広がりつつあること、単独では実現できない広範な社会運動に道を開く可能性があることなど、キャンセルカルチャーの特徴を指摘している。筆者の挙げている個々の事例は、いずれも過去の行為が現在のキャリアに影響を与えたものである。以上の内容をバランスよくまとめ、それにのっとって自分なりの結論を書くことができればよい。論理的な議論が展開されていれば、筆者の見解に対する賛否は得点に影響しないが、いずれの立場であれ、その根拠を説得力ある文章で表現しなければならない。

なお、注意事項にあるように、改行しないことを見落としているものや規程の字数に満たないものが散見された。いずれも減点対象となるので、問題文はもとより、注意事項もよく読んで解答しなければならない。また、問 1・問 2 を通じて単純な表記ミス(誤字、文法上の誤りなど)もあった。こうしたミスが致命傷になることもあるので、注意してほしい。